

〈監修〉松浦 慶太先生 (三重大学病院脳神経内科、三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

……パーキンソン病の重症度を知る意義について教えてください

パーキンソン病は徐々に進行する病気です。そこで、病気が進んでも支障なく日常生活が送れるようにするため、病気の進行度に従ってお薬の量や種類を調整すること(服薬内容の見直し)や、動きやすいように住まいに改良を加えることなど(環境整備)が大切です^{1,2,3)}。このようなパーキンソン病の進行度の目安になるのが重症度です。パーキンソン病の進行の速さは人によってさまざまであるため⁴⁾、重症度を知って適切に対処することが重要です。

また、重症度は公費からの医療費の助成を受ける際にも大事な目安になります^{3,5)}。パーキンソン病の重症度と医療費助成については、当パーキンソンマイル.netの「パーキンソン病の医療費助成について」を参考にしてください。



……パーキンソン病の重症度はどのようにして決めるのでしょうか

パーキンソン病の重症度の評価には、運動障害の程度を5段階で示す「ホーン・ヤールの重症度分類(ヤール重症度)」と、日常生活機能障害を3段階に分類する厚生労働省の研究班による「生活機能障害度」が使われます^{1,3,5)}。

ヤール重症度は、症状がからだの片側のみの場合はⅠ度(ヤールⅠ度)、両側にみられるとⅡ度(ヤールⅡ度)、介助なしで生活できるレベルのⅢ度(ヤールⅢ度)、何らかの介助が必要となるⅣ度(ヤールⅣ度)、車椅子あるいはほとんど寝たきりになるⅤ度(ヤールⅤ度)に分類されています。生活機能障害度は、ほとんど介助を要さないⅠ度、部分介助を要するⅡ度、全面的な介助を要するⅢ度に分類されています³⁾。

パーキンソン病の重症度は、評価時の状態で決まるため、重くなる一方ということはありません。たとえば、ヤールⅢ度の方が治療によってⅡ度に改善することはよくあります⁵⁾。

●パーキンソン病のホーン・ヤールの重症度分類と生活機能障害度分類

ホーン・ヤールの重症度分類

厚生労働省の生活機能障害度分類 (異常運動疾患調査研究班)

I度

体の片側だけに手足のふるえや筋肉のこわばりがみられる。体の障害はないか、あっても軽い。



II度

両方の手足のふるえ、両側の筋肉のこわばりなどがみられる。日常の生活や仕事はやや不便になる。



I度

日常生活、通院にほとんど介助がいらない。

III度

小刻みに歩く、すくみ足がみられる、方向転換のとき転びやすくなるなど、日常生活に支障が出るが、介助なしに過ごせる。職種によっては仕事を続けられる。



IV度

立ちあがる、歩くなどが難しくなる。生活のさまざまな場面で、介助が必要になってくる。

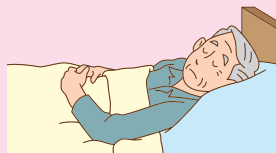
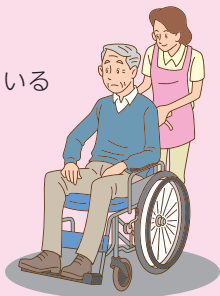


II度

日常生活、通院に部分的な介助が必要になる。

V度

車椅子が必要になる。ベッドで寝ることが多くなる。



III度

日常生活に全面的な介助が必要で、自分だけで、歩いたり、立ち上がったりできない。

武田篤(柏原健一ほか編)：みんなで学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、pp6-9 2013.

……………いつかヤールV度に進むのではないかと心配です

パーキンソン病の方のすべてが、ヤールV度まで進行するわけではありません。V度になる方は、ほかに脳卒中の合併のある方、手術や骨折で長時間安静が必要であった方、何らかの理由により重い認知症を合併した方などです。多くの方はⅢ度またはⅣ度までで、それ以上になることはありません⁶⁾。血圧やコレステロールに注意する、転んで骨折しないように気をつけて歩いたり、かかとから地面に足をつけて歩く^{2,6)}、環境整備をする、などによりV度に進むのを防げます。



松浦 慶太先生
からのコメント

症状は、日や時間によって変動することもあります。また、ホーン・ヤール重症度はⅡ度Ⅲ度とⅠ度と比べて2倍3倍悪くなるわけではありません。また、正確な判定には医師による診察もかかせません。重症度の数字に一喜一憂するのではなく病気と上手に付き合っていくのに利用していきましょう。

参考資料

- 1) 武田篤(柏原健一ほか編)：みんなで学ぶパーキンソン病。南江堂、東京、pp6-9、2013.
- 2) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp36-37、2015.
- 3) 村田美穂(監修)：スーパー図解パーキンソン病。法研、東京、pp64-65、2014.
- 4) 山之内博(監修)：よくわかる最新医学 パーキンソン病。主婦の友社、東京、pp38-42、2004.
- 5) 柏原健一(監修)：パーキンソン病のことがよくわかる本。講談社、東京、pp34-35、2015.
- 6) 水野美邦：パーキンソン病とともに楽しく生きる。中外医学社、東京、pp10-12、2013.